職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月	日 校長名			所在地								
ホンダ テクニ		昭和51年2月21		〒356-										
カレッジ 関	電話 049-264-0121													
設置者名				〒356-	-8657	所在地								
学校法人ホンク	ダ学園	昭和51年2月21	日 寺谷 公良	埼玉県	ふじみ野市鶴ヶ岡 (電話) 049-264	5-2-2 -0121								
分野	記	定課程名	認	定学科名	(12,017,010,120	専門士		1	要門士					
工業		業専門課程		車研究開発		_		第/	(部科学省告示 (十八号					
学科の目的 認定年月日	行動力を		の規定に基づき、高度の 動車整備士を育成する事			所及び理論を習得させ、自	動車0	の未来を担う自動	助車知識と技術力と					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義		演習	実習実験実								
4	昼間	一級自動車整備士 4146時間/開発・設計 エ学4011時間/海外イ ンターンシップ 3941時間	一級自動車整備士1416時間/ 2595時間/海外インターンシッ		一級自動車整備士60 時間/開発・設計工学 0時間/海外インターンシッ 730時間	-級自動車整備士2670時間 /開発・設計工学1416時間/ 海外インターンシッフ2606時間	/開発	自動車整備士0時間 ・設計工学0時間/ 「ンターンシッフ0時間	一級自動車整備士0 時間/開発・設計工学 0時間/海外インターンシップ0時間					
生徒総定	<u></u>	生徒実員	留学生数(生徒実員の)	内敷)	専任教員数	兼任教員数		総	単位時間 教員数					
440人		383人	15人		30人	2人			32人					
学期制度		4月1日~9月30 10月1日~3月3		,	成績評価	■成績表: ■成績評価の基準・方 学習評価は、平常試験 以上合格とする。		末試験を総合し	て評価し、60点					
長期休み	■夏 ² ■冬 ³	始: 4月1日 ~4 季: 7月27日~8 季:12月28日~1 末: 3月14日~3	月19日 月6日		卒業·進級 条件	必須科目全ての履修完了、および								
学修支援等	■個別相 入学前教 クラス担	!任制、新入生オリ	エンテーション、定期的		課外活動	■課外活動の種類 安全運転研修、献血、学園祭								
	随時、成 ■主な就 自動車期	え え え え え え え え え え え え え え え え え り	の個別対応、生活指導な	など		■サークル活動: ■国家資格・検定/その (令和元年)			5月1日時点の情報)					
	関連企業 ■就職指導内容 個別面談による進路確認と就職先の斡旋 推路別説明会、社会人研修、企業説明会、企業セミナーの実 施。就職試験に向けた個別指導の実施							受験者数	35人					
	■卒業	者数:	52	Д		SE2級 (一級自動車整備 士コース対象)	3	37人	35人					
就職等の 状況※2	■就職ネ	希望者数:	52	人	主な学修成果 (資格・検定等)	損害保険募集人 自動車保険単位 (一級自動車整備 士コース対象)	3	37人	33人					
NOUNZ	■就職者		52	人	*3	21 10/1967								
	■就職□	率: 皆に占める就職者の	100	%										
	■午未1	11に口める汎戦190.	100	%										
	■その作		∞ (−98+7		-	※種別の欄には、各資格・検 るか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修 ②国家資格・検定のうち、修 ③その他(民間検定等)	7と同時	計に取得可能なもの						
		(令和元 年度卒業 令和2年5月1日				■自由記述欄								
中途退学 の現状	令和2年: ■中途; 進路変更 ■中退隔 個人護者	退学者 €4月1日時点におい 3月31日時点におい 退学の主な理由 ・病気・意欲喪失等 防止・中退者支援・ 炎、放撲後の連携・連絡、およせ	て、在学者383名(平成3 で、在学者375名(令和2	2年3月31日卒	≤業者を含む)	率 2.1	%							
経済的支援 制度	■学校3 ※ホン 別:	独自の奨学金・授 ダ学園賛助会奨学金	業料等減免制度: ﴿前期、後期各約35名。学 144,000円 女子→216				円(いる	ずれも無利子)を1	資与 。					
第三者による 学校評価	※有の場	の評価機関等から 合、例えば以下につい 本、受審年月、評価結			URL)									
当該学科の ホームページ URL				http://ww	w.hondacollege.ac.jp	/honda_e/								
O. C.	<u> </u>													

(留意事項)
1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

- と、乳職等の状況(※22) 「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査「以ば代基本調査」における定義に従います。 (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査「における「就職率」の定義について (1)「就職率」はついては、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。 ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留
- ②「京職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
 ③「就職者」とは、正規の職員、雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
 ※「京職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
 (2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
 「①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数の方式職者総数の占める割合をいいます。
 ②「京職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者として扱う)。
 ③「記職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはません。(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
 ③」上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等に対して記載します。また、「その他」の間は、関連分野へのアルバイトを数や進

3. 主な学修成果(※3) 認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入資状況等)について記載します。

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基 本方針
- ・企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を 十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程編成を定期的に行うことを基本に展開を図る。また、企業実習などを通 じ、学校では学びきれない実践力を養うと共に、卒業生満足度調査を実施し、企業が求める人材要素や教育弱点領域の 把握を行い、教育課程への反映を行うものとする。
- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- 校長は当年度の教育課程編成を本校関係者により組織した教育課程編成委員会(以下「編成委員会」という。)に報告 し、意見を聴取し、その意見を尊重し、教育活動に活用する。

① カリキュラムの改善の	② カリキュラムの改善へ	③ 組織としてカリキュラム	④ 決定内容に応じてカリ	⑤ 実施結果
ため委員会を設置	の意見を提案	の改善を検討・決定	キュラムを改善	を検証

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中妻 茂	一般社団法人埼玉県自動車整備振興会	R2年4月1日~R4年3月31日	1
鈴木 尚也(国際自動車整備科担当委員)	株式会社 ホンダテクノフォート	R2年4月1日~R4年3月31日	3
冨田 英則(自動車整備科担当委員)	株式会社 ホンダカーズ久喜	R2年4月1日~R4年3月31日	3
中村 純一 (一級自動車研究開発学科担当委員)	株式会社 ホンダプロモーション	R2年4月1日~R4年3月31日	3
都築 俊一(委員長)	ホンダテクニカルカレッジ関東 校長	H31年4月1日~R3年3月31日	
山口 靖之	ホンダテクニカルカレッジ関東 教頭	R2年4月1日~R4年3月31日	
熊原 文人(事務局)	ホンダテクニカルカレッジ関東 サービスエンジニア2課課長	R2年4月1日~R4年3月31日	
達富 由樹	ホンダテクニカルカレッジ関東 開発エンジニア課課長	R2年4月1日~R4年3月31日	
鴫 健司	ホンダテクニカルカレッジ関東 サービスエンジニア1課課長	R2年4月1日~R4年3月31日	
渥美 淑弘	ホンダテクニカルカレッジ関東 教育改革課課長	H31年4月1日~R3年3月31日	

- ※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
 - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
- 令和元年度2回開催・令和2年度2回開催
- (開催日時)
- (令和元年度)第1回 令和元年5月24日 14:00~16:00 (令和元年度)第2回 令和元年6月27日 15:00~17:00 (令和2年度)第1回 令和2年6月12日 15:00~17:00 (令和2年度)第2回 令和2年6月24日 15:00~17:00 (5)教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- とノオロー寺がり ③一級登録試験100%合格に向けた取り組み:分野別に偏差で管理し弱点の見極め実施。分野別に目標点を決め、進捗管理。 ④二級登録試験100%合格に向けた取り組み: 低学力/応用力欠如者顕在化に対する仕組み造り等 ⑤企業CS結果に対する対応について: e-dealer(ホンダ・サービスフロントのシステム)時間増。お客様説明のロープレ強化。

- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
- 卒業生満足度調査においての弱点領域や点検整備など実践カ不足に関して学生自らが気づく必要がある。
- また内定後の安堵感による気の緩みなどから就職までに備えなければならないことを実行できない学生が多い。 就職先の現場を経験することで実社会の厳しさと自らの弱点を知り、卒業までの課題を自覚すると共に内定先からの期待を認識し、今後の学習
- (2)実習・演習等における企業等との連携内容

就職内定先企業、または提携企業にて現場実習を行う。合わせて研修学生は実習先へ研修レポートを提出し、企業から考課表にて評価を頂くと 共に科目評価とする。(対象科目: 体験実習)

(;		科目数については代表的な5科目について記載。	
	科目名	科 目 概 要	連携企業等
		実社会において実施されている実践的な整備内容を知 り、その手法を理解習得する。	ホンダカース埼玉・ホンダカーズ東京中央・ホンダカーズ横浜・ホンダカーズ横浜・ホンダカーズ茨城・ホンダユーテック 等19社

- 3、「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学則細則より

(教職員の研修)

第5条 教員は、校長の指示により、その専門分野における実務能力の向上及び指導力の修得・向上のために必要な研 修を定期的に受けるものとする。

(2)研修等の実績

- ①専攻分野における実務に関する研修等
- (Uラダカチドにの17 公夫がに属するが110を 1) 本田技術工業(株) における新機種技術研修(2019年5月29日 (Nワゴン)、12月18日(新市は)1月29日(新accord)の3回参加、ホンダが新しく市場 に売り出した機種について、教員が新機構・新技術を理解することができる。結果、学生に教えていく新機構・新技術の基礎理解の場である。)

②指導力の修得・向上のための研修等

- 1)埼玉県専修学校各種学校協会主催の専修学校教員研修会(2019年6月29日、2019年7月13日、2019年7月27日、専修学校教職員の資質向 | 17項 元 元 子 代 各種子 代 公 一 子 代 名 世 子 代 教 員 町 修 云 (2019年7月13日、2019年7月13日、2019年7月17日、 2019年7月17日、 2019年7日、 2019年7月17日、 2019年7月17日

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

本田技研工業(株)における新機種技術研修(コロナにより日程未定。ホンダが新しく市場に売り出した機種について、教員が新機構・新技術を理解することができる。結果、学生に教えていく新機構・新技術の基礎理解の場である。)

②指導力の修得・向上のための研修等

- 1)埼玉県専修学校各種学校協会主催の専修学校教員研修会もコロナ感染症拡大の為、開催未定(専修学校教職員の 資質向上と教育内容充実のため、さらに効果的な職業教育を実践する。教育原理など教育の基本的知識に加え、学生とのコミュニュケーションについて実践的に学べる) 2)全国自動車大学校整備専門学校主催の教員研修コロナ感染症拡大により中止(自動車の専門学校に教員として赴任
- した先生を集め、、自動車整備に関する効果指導を習得するために効果的な指導方法を学ぶ宿泊研修)
- 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表しているこ と。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学則に照らし建学の精神・育成方針に沿った年度毎の重点施策、学生生徒の状況、教育課程・学習指導、教員の状況に ついて自己評価表を用い、自己評価を実施し、学外からの適正な評価を受けるため、学外者を含んだ学校関係者評価委 員会を組織し、実施した自己評価を検証する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の志・学園の目的・教育方針 年度における重点課題
(2)学校運営	3ヵ年計画及び方針と目標(重点課題)
(3)教育活動	教務部方針及び重点課題対応施策
(4)学修成果	就職内定率・資格取得率・退学率・休学率・社会的な活躍及び評価
(5)学生支援	進路指導・学生相談・経済的支援・学生の健康管理・課外活動・学生
(6)教育環境	国土交通省における一種養成施設設置基準
(7)学生の受入れ募集	募集活動目標と施策
(8)財務	事業計画・主要財務数値・予算書・監査計画書
(9)法令等の遵守	專修学校設置基準·第一種養成施設指定基準
(10)社会貢献・地域貢献	環境への取組み・社会貢献事業に対する取組み(地域清掃)
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

今年度の評価である「学園の強みを積極的に情報発信することで学園のブランド力が向上」「多くの学生が享受できる奨学金制度の検討」「女子学生を獲得するための取り組みを今後も更に進めて頂きたい」「エコランやフォーミュラー競技で常にNo1になる取り組みをお願いしたい」の提案をして頂き、重点施策として、スピードを持って、積極的に具体化し取り 込んでいる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
金子 明様	埼玉県 ふじみ野市 市役所	R2年4月1日~R4年3月31日	自治体代表
森山 吉樹	株式会社 オートテクニックジャパン	R2年4月1日~R4年3月31日	企業等委員
松岡 孝	本田技研工業株式会社	R2年4月1日~R4年3月31日	企業等委員
関谷 雅裕	株式会社 ホンダカーズ 埼玉	R2年4月1日~R4年3月31日	企業等委員
藤井 潤	当校 後援会OB	R2年4月1日~R3年3月31日	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 <mark>令和2年7月1日 (ホームペー)</mark> ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 (<u>URL:http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/gaiyou/jouhoukoukai.html</u>

(別途、以下の資料を提出)

П		対するカープーグーグの項目との外心
ı	ガイドラインの項目	学校が設定する項目
ı	(1)学校の概要、目標及び計画	建学の志・学園の目的・教育方針 年度における重点課題
ı	(2)各学科等の教育	入学・卒業情報・カリキュラム・資格、国家試験結果・進路
ı		教職員数・組織情報
ı	(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業との連携による取組み状況(インターンシップ)
ı	(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事・課外活動(同好会・ボランティア活動)
ı	(6)学生の生活支援	学生相談・経済的支援・学生寮・保護者との連携(後援会活動)
ı	(7)学生納付金・修学支援	納付金情報・奨学金制度
ı	(8)学校の財務	主要財務数値
ı	(9)学校評価	自己評価·学校関係者評価結果·改善施策
ı	(10)国際連携の状況	
l	(11)その他	
1	·//10\ P **//11\ In - I I. I K 在司井	·

※(10)及び(11)については任意記載。 (3)情報提供方法

JRL:http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/htec/kigyou.html

			引課程 一級自	動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)令	`和 2	2年								
	分類	<u></u>						授	業方	法	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校 外		兼任	企業等との連携
0			図面・材料	自動車を取り扱う上で必要な材料の種類、製法、特徴、用途及び図面に関する一般知識に ついて理解習得する	1通	20		0			0		0		
0			基礎自動車工 学	これから学ぶにあたり、基本的な自動車とは 何かについて理解する。整備士にかかわる工 学的な基本事項理解する。	1 前	16		0			0		0		
0			エンジン構造	原動機及びエンジン系電装品、動力伝達装置 の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得 する。	1前	65		0			0		0		
0			シャシ系構造	車体各部及び車体系電装品、動力伝達装置の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得する。	1 前	65		0			0		0		
0			自動車総論	自動車に関する物理・数学、環境、内燃機関 等基礎概論を理解習得する	1通	25		0			0		0		
0			総合自動車 I (総合自動車 工学)	シャシ・エンジン等に関する自動車工学の復 習を行い、総合理解を深める。	1前2通	16		0			0		0		
0			エンジン系整備(二輪車整備も含む)	エンジン及びエンジン系電装品の点検整備、 および電子制御燃料噴射装置の基礎を学ぶ。 また二輪車固有のエンジンに関する機構・整 備を学ぶ	1 後	50		0			0		0		
0			シャシ系整備 (二輪車整備 も含む)	車体、動力伝達、変速装置、走行装置、懸架装置、灯火類などのシャシ系電気装置の点検整備を学ぶ。また二輪車固有のエンジン以外の機構・整備を学ぶ。	1 後	51		0			0		0		
0			総合自動車Ⅱ (総合自動車 工学)	シャシ・エンジン等に関する自動車整備の復 習を行い、総合理解を深める。	1後2通	16		0			0		0		
0			機器の構造取り扱い	整備に必要な機器の動作原理・取り扱い・メンテナンスを学ぶ。基本的な作業の仕方や正しい使用法などを理解する。	1 通	34		0			0		0		
0			工作作業	整備に必要な機械加工技術を理解習得するとともに、工作機器の基本的な取り扱いを覚える	1 前	23				0	0		0		

合計	6 2 科目	4146単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	Ē
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが	1 学年の学期区分	2期
課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする	1 学期の授業期間	26週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

(_	こ業.	専門	課程 一級自	動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)令	和 2	年月	复							
	分類	į						授	業方	法	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
0			測定作業	整備に必要な計測機器の正しい作業方法を理 解習得する	1 通	45				0	0		0		
0			実エンジン構造 (実ニ輪構造含む)	(四輪・二輪) エンジン本体・潤滑・冷却・ 燃料装置・吸排気装置及びエンジン系電装品 の分解組立作業等を通じ構造機能と故障整備 概要を理解習得する。	1 前	129				0	0		0		
0			実シャシ構造 (実二輪構造 含む)	(四輪・二輪) クラッチ・AT/MT・サス・ブレーキ・ステアリング・ボディ及びシャシ系電装品の分解組立作業等を通じ構造機能作動と故障整備概要を理解習得する	1 前	129				0	0		0		
0			実エンジン系 整備(実二輪 構造含む)	前期エンジン系構造実習にて得た分解・組立 方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・ 調整方法を理解習得する	1 後	165				0	0		0		
0			実シャシ系整備 (実二輪構 造含む)	前期シャシ系構造実習にて得た分解・組立方 法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調 整方法を理解習得する	1 後	165				0	0		0		
0			実二輪車整備	通年の二輪車実習にて得た分解・組立方法・ 点検・調整方法を確実に理解する	1 後	8				0	0		0		
0			総合自動車整 備実習	1年:シャシ・エンジン等に関する実習における理解度を確認する。 2年:故障探求や点検方法など実習における理解度を確認する	1通 2通	56				0	0		0		
0			エンジン系応 用(ディーゼ ル 自 動 車 含 む)	エンジン総論バランサ機構、可変バルブ開閉機構、ロータリエンジン、燃料装置、 L P G、過給機など、エンジンの構造機能(応用編)及び、燃料油脂などについて理解習得する	2 前	63		0			0		0		
0			シャシ系応用	シャシ性能総論、AT、油圧PS、アライメント要素、クラッチ、トルクコンバータ、サスペンション性能、ABS, TCS等の機能構造作動等について理解習得する	2	63		0			0		0		
			合計	6 2 科目					4146	6単位	立時	間(単	位)

卒業要件及び履修方法	授業期間	等
	1 学年の学期区分	2期
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする	1 学期の授業期間	26週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

	(]			課程 一級自	動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)令	和 2	年月								
 必 選択の必修 の 自由 選択の必修 の 自由 選択の必修 の 自由 選択の必修 の 自動車総論II 表行性能、ブラネタリギヤ、エンジン性能、激効率と仕事率、電気効率、オンロスコープ 液形、軸重計算、制動性能等 の は関原因授求、工工、ジン・対象を関係等する。対象を経験である。		分類	Į						授	業方	法	場	所	教	員	
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		選択必修	選	授業科目名	授業科目概要	当年次・学	業時	位			験・実習・					企業等との連携
日動車総論Ⅱ 熱効率と仕事率、電気効率、オシロスコープ 前 30											技					
○	0			自動車総論Ⅱ	熱効率と仕事率、電気効率、オシロスコープ	2前	30		0			0		0		
O 割す技術 センサー類の整備点検方法を理解する 後 14 0 0 O 自動車の点検車検要領・診断機器・大型自動車・検査機器取り扱いなど自動車の検査や各検査機器の活用と関係法令・基準等について関係は、 2 23 0 0 O 自動車法規 法規道路運送車両法、道路運送車両の保安基準を学ぶことを通じて、二級自動車整備士としての知識と技術を習得して正しい法規の運用能力を身に付ける。 2 23 0 0 E来エンジン系の用(ディーゼル含む) ごがい、可要バルブ機構、ロータリ、LPなの対象を習得して正しい法規の運用能力を身に付ける。 2 23 0 0 E来エンジン系の用能力を身に付ける。 運然機構、ロータリ、LPなの対象である機構、アラッセスタッシュンタンを対象機構、応用機構の構造機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する 2 104 0 0 E来シャシ系の開用 オートマチックトランスミッション、パワー表で通じ理解習得する 2 104 0 0 0 E来シャシ系の開展 オートマチックトランスミッション、パワー表を通じ理解習得する 2 104 0 0 0 E来対障原因探求エンジンに対ける機械系の故障診断における診察がある。 2 97 0 0 0 E来対障原因探求シャシにおける機械系の故障診断における診察がある。 2 41 0 0 Ex数障原因探求シャシャシにおける機械系の故障診断における診察がある。 2 41 0 0 Ex数障原因探求シャシャシャシャシを開展を対しまなと対しますがある。 2 41 0 0	0			エ ン ジ ン (ディーゼル含	法を理解習得する。一級資格につながる電子 制御系統の診断手法の基本を理解習得する。	2 後	66		0			0		0		
日	0			新技術		2 後	14		0			0		0		
○ 自動車法規 準を学ぶことを通じて、二級自動車整備士と 2 しての知識と技術を習得して正しい法規の運 2 後 23 ○ <td>0</td> <td></td> <td></td> <td>自動車検査</td> <td>検査機器の活用と関係法令・基準等について</td> <td>2 前</td> <td>23</td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td>	0			自動車検査	検査機器の活用と関係法令・基準等について	2 前	23		0			0		0		
では、	0			自動車法規	準を学ぶことを通じて、二級自動車整備士と しての知識と技術を習得して正しい法規の運		23		0			0		0		
○ 実めで原因探示の用機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する 2 前 104 ○ </td <td>0</td> <td></td> <td></td> <td>応用(ディー</td> <td> どエンジン新機構・応用機構の構造機能等を</td> <td>2 前</td> <td>104</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td>	0			応用(ディー	どエンジン新機構・応用機構の構造機能等を	2 前	104				0	0		0		
O 求エンジン (ディーゼル 含む) 診断方法と対応手法を理解習得実践する。電 2 分割御系統の診断手法の基本を理解習得する。電子 る。 97 O O O 実故障原因探 求シャシ シャシにおける機械系の故障診断における診 断方法と対応手法を理解習得実践する。電子 制御系統の診断手法の基本を理解習得する。 2 後 41 O O	0			実シャシ系応 用	ステアリング、アライメントなどシャシ新機 構・応用機構の構造機能等を分解組立作業等	2前	104				0	0		0		
〇	0			求 エ ン ジ ン (ディーゼル	診断方法と対応手法を理解習得実践する。電 子制御系統の診断手法の基本を理解習得す	2 後	97				0	0		0		
合計 6 2 科目 4146単位時間(単位	0				断方法と対応手法を理解習得実践する。電子	2 後	41				0	0		0		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			-	合計	6 2 科目				-	4146	単位	拉時	間(単	位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	手
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課	1 学年の学期区分	2期
程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする	1 学期の授業期間	26週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

(_	工業	専門	課程 一級自	動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)令	ì和 2	2年	芰							
	分類	Ę						授	業方	法	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任		企業等との連携
0			実践自動車整 備	自動車検査業務や点検整備など、社会において実施されている実践的な整備内容などを実践し、その手法等を理解習得する。(企業実習含む)	2 前	123				0	0		0		0
0			新技術	ホンダセンシングにおけるエーミング等の自動運転に必要な機器の校正方法などを理解する。アトキンソンサイクルの実物の分解組立を通じ構造理解。	2 後	25				0	0		0		
0			実自動車検査	自動車の検査について実習作業を通じ理解習 得する。各検査機器の活用と関係法令・基準 等について理解する	2 前	56				0	0		0		
0			安全運転	安全運転に関する心構えを認識し、今後の運 転等の意識改革を図るとともに事故減少に取 り組む	1 2 通	32		0		Δ	0	Δ	0		
0			接客実務	サービスにおける接客実務の理解の幅を広 げ、実践できるようにする(SE3級)	1 2 前	36		0			0			0	
0			特別講座(総 合 自 動 車 整 備)	自動車検査業務や点検整備方法など、実践的な整備内容を知り、その手法等の理解、また、二級整備士として必要な知識の定着を最終仕上げを目指す。	2 後	108		0			0		0		
0			自動車構造 ・力学	1級整備士においての自動車構造及び自動車 の性能等における力学的要素について知識を 習得する	3 前	20		0			0		0		
0			自動車電気 ・電子	1級整備士レベルでの自動車電気装置(電子 制御回路の基本と応用及び点検診断等)にお ける知識を習得する	3 前	30		0			0		0		
									単	位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間	等
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが 課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	26週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

			課程 一級自	動車研究開発学科 一級自動車整備士コース	() =	令和	2年								
	分類							授	業力	<u>法</u>	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演習	実験・実習・実技		校 外			企業等との連携
0			新 材 料 · 新 技 術	自動車の新機構・新材料及びHonda技術等に ついて理解習得する	3 後	30		0			0		0		
0			総合診断技術	1級整備士レベルでの自動車電気装置におけ る故障診断の知識や通信信号に関する知識を 習得する		58		0			0		0		
0			応用整備技術	シャシ電子制御装置における回路構成および 故障診断の基礎知識を習得する。	通	90		0			0		0		
0				1級自動車整備士が担っていく社会的に重要なテーマとして、「環境保全」の必要性と意義、資源の有効利用、産業廃棄物の影響と対応、整備工場における適正処理等の知識を理解する	3	32		0			0		0		
0			整備作業 機器取扱	1級整備士における回路診断等に必要な各計 測器の特性や適用範囲、測定対象の電気回路 の特性、機器の活用方法を理解する		15		0			0		0		
0			自動車検査 (一級)	自動車に関する法令を細かく把握し、1級整 備士として必要な検査要領を理解習得する	3 前	5		0			0		0		
0				1級整備士として道路運送車両法や保安基 準、合わせて関係諸法令等を理解し、正しい 運用能力を身につける	3 前	10		0			0		0		
0				Hondaサービスエンジニアに必要な車両の知 識を学び、資格取得を目指す。	3通	30		0			0		0		
0			自動車概論Ⅱ	電子制御装置のセンサー技術・アクチュエー タ技術・制御技術を学ぶ	4 通	100		0			0		0		
		í	合計	6 2 科目 4146単位時間(単	位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが	1 学年の学期区分 2 期
課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする	1 学期の授業期間 2 6 週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

			課程 一級自	動車研究開発学科 一級自動車整備士コース	() =	令和	2年								
	分類							授	業方	法	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	時	単位数		演習	実験・実習・実技		校 外			企業等との連携
0			機械加工	実践的な物作りを通じて機械加工の基礎技 術、各種工具・機器の取扱い方法を習得す る。	3 後	10				0	0		0		
0			応用計測	電気の計測機器の測定方法を理解習得し 実践する。	3 後	10				0	0		0		
0			整備技術	エンジン電子制御装置の知識を学び、一級整 備士として必要な応用技術を理解する。	3 前	120				0	0		0		
0			故障診断	シャシ電子制御装置の知識を学び、一級整備 士として必要な応用技術を理解する。	3後	110				0	0		0		
0			応用整備実務	車検・点検・一般整備作業、およびHond a サービスエンジニアに必要な知識技術の習得	3 前	110				0	0		0		
0			整備作業課題 研究	テーマ研究を推進することでテーマ推進のプロセスを理解すると共に、各自の整備技術・知識の向上を目指す	3 後	##				0	0		0		
0			自動車検査 (実習)一級	自動車に関する法令を細かく把握し、それら に対応した検査・点検・一般作業を習得す る。	3 前	20				0	0		0		
0			専門実習	一級整備士としての実践的な整備技術の向上 を図ると共により高度な診断スキルを習得す る	4 後	177				0	0		0		
0			応用実習	実践的作業実習(車検点検・一般整備)	4 前	164				0	0		0		
		1	合計	6 2 科目					1146	単位	ⅳ時「	間(単	位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	等
	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	26週

(留意事項)

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

¹ 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

(]	C業	専門	課程 一級自	動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 수	1和2	2年	芰							
- :	分類	Į						授	業方	法	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演 習	実験・実習・実技	校内		専任	兼任	企業等との連携
0			総合実習	各種作業の技術的なスキルアップ及び整備関 連知識の幅を広げると共に課題対応力や、1 級整備士に求められる口述対応力など総合的 にスキルアップを図る	4 通	##				0	0		0		
0			体験実習 (企業実習)	授業で学んだ理論と技術を実際の職場で実 践、確認することで、自己の弱点を把握し、 卒業までの具体的な課題と目標を明確にす る。	4 前	##				0		0	0		0
0			サー ビ ス マ ネージメント I	Hondaの顧客管理システム 騒音診断・お客様対応を学ぶ	3 通	##				0	0		0		
0			サ ー ビ ス マ ネージメント Ⅱ	Hondaのサービスエンジニアに必要な技 術を習得し、実技試験合格を目指す	4 後	50				0	0		0		
0			経営概論	会社における数字の基本を理解や経営に関す る基本理念等の理解習得と1級整備士としての 対人関係能力向上を図る	3通4前	60		0			0		0		
0			営業実務	顧客対応能力、用品知識などの応用スキルや 販売会社における実務としての知識を身に付 けると共に、接客実務の能力向上を図り実践 する。	3 4 通	##		0			0		0		
0				社会人としてのPC操作能力の向上を図ると共に、販売会社で使用しているシステムを学び 実践できるようにする	3 4 通	60			0		0		0		
		í	合計	6 2 科目				4	146	単位	は時	間(単	位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分 2	2期
	1 学期の授業期間 26	過

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。